



わたしはおいりにとりこんでいます。おいりでは、きょう一日楽しくすごせますようにしています。もうひとつはあいさつするようにしています。あいさつは毎日することで、みんな気持ちよくなるし、一日楽しく過ごせます。このあいさつは神さまにも届くと考えています。わたしと同じように神さまも喜んでくれると思っています。この2つをみんなが積み重ねると、愛と希望に満ちた平和な世界ができると思います。

私たちの社会はいつも、親がどうか、家族がどうか、家庭がどうかを厳しく問うけれど、自己責任の追求の前に、苦しんでいる大人、子ども、親子にとって、この社会が安全で安心できる、信頼できる場所となしてほしい。

### 聴かせてください

- 1 あなたのイメージする「ケアの共同体\*」とはどのようなものですか？
- 2 「ケアの共同体」に向けて(なるために)、「今、足りないこと」は何ですか？
- 3 「今、足りないこと」のために、どうしたらよいでしょうか。

\*コミュニティ、あつまり



正解はありません。一人ひとりの感じたこと、思ったことを大切に、ほかの人と分かち合い、認め合い、ともに歩んでいくことができますように。

一人ひとりの存在は他者の存在と深く結びついているということ、人生はただ過ぎ行く時間ではなく出会いの時間だということです。<FT66>



彼ら(在留資格のない外国ルーツの子ども達、人々)に向かって「頑張っ！」ということばをよく聴きますが、彼らは頑張っています。人権意識のある社会にするために頑張らないといけないのは私たちです。

わたしたちのもとにたどりついてくれた子どもたち、苦しい子ども時代を生きてきて大人になったひとたちに、勇気を持って声をあげてくれたこと、生きてきてくれたことへの尊敬と感謝をどんな時も忘れずにいたいです。「生きてきてくれたから出会えたよ。ありがとう。」その気持ちを心のまんなかにおいて、これからも出会えた人々と安心と楽しいを育んでいきたいです。

国際 Caritas は新たなグローバルキャンペーン、「Together We (トッギャザー ウィー)」を昨年末から開始しました。コロナ禍や戦争などによって引き起こされる社会のひずみの中で、特に弱い立場にいる人々や自然環境が影響を受けています。これらの人々や環境が、「あなたたち」ではなく「わたしたち」なのだという意識を持って、互いをケアし、大切にしよう「ケアの文化」を教会共同体として育て、広めて参りたいと思います。皆様のご協力をお願いいたします。(2022年キャンペーン特集号 成井大介司教による巻頭言より)

### We are Caritas キャンペーン特集号2023について

今号は「今の地球と人々の姿(開発の乱発、経済優先)によるさまざまな叫び→それを聞いた私たち→叫びに呼応する取組み→私たちが目指す社会・世界へ」という流れで、目指す世界への道筋を描いています。道に立っているのは「私」そして「私たち」です。



今号に掲載された声や取組みをほかの人、共同体、グループ、活動をしている仲間と分かち合う時間をもっといただけたらと思います。ともに目指す世界に向けて歩んでいきましょう。

### 別紙 ハガキ・葉・カード・メッセージボードについて

#### 事務局宛ハガキ

「ともにケアの文化を目指します」という口に入れ、感想や意見をご記入いただき、ぜひ、Caritas ジャパン事務局までお寄せください。記述内容をキャンペーン広報に使わせていただく場合がございます。掲載の場合は無記名とし、文体統一のため、事務局で調整する場合があります。

#### 葉・ハガキ・カード

ハガキでメッセージを送ってみる、自分だけの葉(しおり)、カードなどを作成し、仲間や大切に思っている人に差し上げたり、交換したりと、誰かと誰かをつなぐものとしてお使いください。

#### メッセージボード(伝言板)

献金者名簿の上半分は、メッセージボードとなっています。二人以上の仲間・グループで、TOGETHER WE(ともに)という単語の下に、仲間とともに、目指す社会、世界に向け、ケアの文化を広めていくために何に取り組むかを書きましよう。取り組む内容、表現方法、文体は自由です。

#### 皆さんとシェアするために!

仲間・グループでメッセージボードを掲げた写真、またはボードのみの写真を、Caritas ジャパン事務局(campaign@caritas.jp)までお寄せください。お寄せいただいた写真は、キャンペーンのウェブサイトでご発表予定です。なお、短冊の写真、その他メッセージや感想なども、事務局までお寄せください。上記QRコードからもご記入いただけます。

#### ◎キャンペーン募金について

Caritas ジャパンでは、キャンペーン募金の受付を開始予定です。キャンペーン募金は、気候変動等に対応するプロジェクト、キャンペーン促進のためのプロジェクトへの支援に活用させていただきます。ご協力をお願い致します。

本誌掲載の写真は、愛徳学園小学校・中学校・高等学校、不二聖心女子学院中学校・高等学校、カトリック那覇教区、NPO法人ヒソミキチ、サレシアンシスターズからの提供写真、また、国際Caritas、Caritasドイツの活動写真、山台地区サポートセンター、Caritas南三陸、Caritasジャパンが撮影した写真を使用しております。

**We are Caritas** No.27(2023年特別号)  
通算発行番号No.333  
郵便振替番号 00170-5-95979  
宗教学法人カトリック中央協議会 Caritas ジャパン  
発行人 成井大介  
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館  
TEL:03-5632-4439 FAX:03-5632-4464  
Email:info@caritas.jp URL:https://www.caritas.jp

https://www.facebook.com/caritasjapan

we are **Caritas**



NO.27

2023年  
キャンペーン  
特別号  
通算発行番号No.333

You can read the text of this newsletter with Google Translation @ <https://www.caritas.jp>

誰であれ、どこにいても、すべての「人間の尊厳を守る」ことは、Caritasが70年にわたって取り組んできた社会正義をめぐる教会の教えの出発点となっています。過去半世紀にわたり、世界は力強い経済成長を遂げてきました。しかし、その代償として、気候変動、森林伐採、海洋酸性化、大気・水質汚染などの環境悪化が広がっています。また、最近の新型コロナウイルス感染症の蔓延は、社会的疎外などの分断を生み、移動や自由の制限、雇用や自立の喪失など、多くの人々の尊厳を奪ってきました。これらの環境の変化によって最も被害を受けるのは、弱い立場においやられた人々、最も貧しい人々です。現に、極度の貧困、過疎化、移民など、弱い立場の人々のいのちを脅かし、尊厳を踏みこじめる事態をも生み出してきました。

このような状況を見過ごすことはできません。

Caritasは「ともに暮らす家(地球)」「ともに生きる兄弟姉妹」の叫びに耳を傾け、そしてその叫び、人々を中心に置いた社会、すべての人の尊厳を守る社会に変えていくために、今回のキャンペーン「TOGETHER WE(ともに)」を展開します。

このキャンペーンは、回勅『ラウダート・シ(LS)』と『兄弟の皆さん(FT)』などを通して、教皇フランシスコが示された「すべてはつながっている」という総合的エコロジーのもと、新しい相互協力のあり方(ケアの文化)と新しい連帯の形(ケアの共同体)を進めていこうというものです。

**TOGETHER WE ACT TODAY FOR A BETTER TOMORROW**  
ともに より良い明日のために 今日行動しよう

### キャンペーン賛同書から皆さんの声

「ケアの文化」という考え方は本当に必要だと思います。助け合いや協力が特別なことではなく、あたりまえとして広まり、日本に根付くように。

私の義弟はネパールの人、義妹はコロンビアの人です。親しく付き合うと教えられることがたくさんあります。世界中の人々が知恵を出し合う必要性は大きいです。

メディアで見聞きする弱い立場の人々に個人で悲しんだり、心を痛めるだけでは解決にならないと思っていましたから、Caritasを通して何らかの協力ができることを嬉しく思います。誰もが大切にされる教会を私も望みます。高齢でも、教会の信者が連帯して助け合う体制がつけたいと思います。(私は81歳)。

自然保護は神様から与えられた大地を平等に保ちながら分け合い生活していくための元だと考えます。「微力だが無力ではない」一戦争、紛争、差別、経済格差、気候変動など、目の前山積する問題を前に、心が折れそうになる時に思い出す言葉です。もともとは、核廃絶に向けて活動する長崎の高校生平和大使たちのスローガンだと聞きました。しなやかに、晴れやかに、

諦めることなく、ひとりでも多くの人の「微力」を集めていくことが出来ればと思います。

高齢の個人応援者です。何もお役立ちできず心苦しいですが、心から応援しております。いつでも弱い力ながら、祈りのうちに関わらせてください。

今関心があることは、家族の平和、また、ともに生きる兄弟姉妹の平和です。

いらぬものを貧困国に回すような仕組みを正すことが「ともに暮らす家」の実現の一端になると思います。

\*国際連合開発計画委員会(CDP)の定めた基準による

「いのち、環境、平和」をひとつのこととして捉える…のは核心の言葉です。戦争ほどの環境破壊はありません。環境破壊は、そのまま未来を失うことになりません。

回勅「兄弟の皆さん」(FT24)にもあるように、誰かの犠牲の上にはなく、互いに!愛し合う価値観を共有したいと思います。

私は病院で看護補助として働いていますので新型コロナウイルス感染症の蔓延で普通の面会がストップになっています。家族の尊厳に皆さんが苦しんでいると思います。新しいコミュニケーション大切と思うし、祈りも大切にしています。(2022.11)

80代の私は、太平洋戦争を知る最後の世代です。私たちは多くの教訓をこの戦争から学んだはずですが、人々の平和な生活が壊され、多くの死者が毎日出ています。世界の指導者の教訓を集めて戦争が終わるよう望んでいます。戦争で平和はない、どのいのちも尊い!!

わたしたちは、新たなプロセスや変革を始めたらしみ出したりできる、共同責任の場に置かれています。傷付いた社会の回復と支援に、積極的に参加しなければなりません。<FT77>



様々な依存症の背景には、生きづらさや心の痛みがあるといわれています。薬物依存からの回復(薬から離れた新しい生き方への挑戦)には、社会とのつながりが必要ですが、共同生活終了後の就職先を見つけることや継続的な就労活動には困難が伴います。

エチオピア南部の村には、給水地が1か所しかありません。水汲みは、毎日女性や子どもの役割で、数時間または24時間かけて行われます。乾季には、子ども(多くが女子)は、この労働のために学校に行くことができません。海外の取組み★4

国内の雇用機会が少ないネパールでは現在300万人が移住労働者として世界各地で働いています。しかし、悪質な業者に騙され、劣悪な環境で働かされたり、コロナ禍の不況で帰国する人が後を絶たず、帰国後の貧困が問題となっています。海外の取組み★1

すべての人間は、尊厳をもって生き、全人的に発展する権利を有しています。<FT107>

一人親家庭の増加、地域の遊び場や交流機会の減少、所得格差の拡大等が子どもたちに大きな影響を与えています。子どもの貧困、心の悩み、不登校、ヤングケアラーなどの問題も露呈しています。

私たちが住む世界を見てみましょう。

START!

ここに来て来たんじゃない。来たて来たんじゃない。生まれた家庭に生まれたかった……

世界の平均気温の上昇を1.5°Cに抑えることは、オセアニアの人々が生き残るための必須条件です。オセアニアの多くの地域が、嵐や雨で1時間以内に家屋浸水となる危機状況にある、とカリタスオセアニアの現状報告書で述べられています。海外の取組み★3

父は、ある日突然、家族にも知らされ、強制送還されました。父を失ったシヨックと自分もいつ強制送還されるかわからないという恐怖、学校でのいじめから、将来への希望も勉強への意欲も失いました。

サハラ砂漠南縁部サヘル地域では、気候変動の影響による約80%の農地が荒廃し、武装勢力による民間人への襲撃が相次ぎ、避難する人が急増しています。ブルキナファソの国内避難民は、200万人まで増え、移動中の女性、子ども、障害者など弱い立場にある人々が武力対立に巻き込まれています。海外の取組み★2

私も苦しかったけど、自分の子どもを野宿させなければならぬ父はもった苦しかったと思う。

様々な理由から命をかけて逃げてきた人びとは日本入国時に在留資格がないという理由で、入管施設に無期限で収容されます。収容から解放されても、難民認定率が低い日本では「仮放免」となり、住民登録もできず、働くことも、健康保険に入ることもできません。仮放免の親から生まれた子どもたちも在留資格は与えられず、常に強制送還の危機と隣り合わせで生活しています。

アマゾン熱帯雨林地域の森林火災は、経済活動、土地開発などの人為的な要因によるものです。このような人為的森林火災が地球温暖化に拍車をかけています。人が森を燃やさなければ生計が成り立たない社会構造の見直しや法整備が求められています。海外の取組み★5

ロシアによるウクライナへの軍事侵襲により、8000人以上の民間人が亡くなり、人口約4000万人のウクライナから800万人以上が国外に逃れ、国内避難民も500万人以上にのぼります。ウクライナとロシアが輸出している一次産品の物価が高騰し、世界中の人びとの暮らしに不安と困難をもたらしています。海外の取組み★6

コロナ禍において、生活保護基準ギリギリの低所得者、ホームレス、雇止めになった非正規労働者など、日頃から苦しい生活をしている方たちが、苦境に立たされており、さまざまな支援が必要です

次作物の耕作に向けて水がなくても、何をしたらよいかもわかりません。作物を植える必要があるのですが、水汲みに行く母親の言葉

コロナによる解雇や雇止めにならなくなったのは女性非正規労働者が最も多くなりました。ステイホームの影響でDV被害が増え、2020年7月以降女性の自殺率が急増していることも女性の苦境を表わしています。

僕は何故、今、ここにいます。每晩、お父さんにその理由を聞いています。

家族でウクライナからモルドバに避難した男の子の言葉

社会に未来があるには、人間の尊厳というわたしたちが従うべき真理への敬意が、社会に浸透していなければなりません。<FT207>

一旦立ち止まって考えてみましょう。

これらの声は一部にすぎません。同じ地球に住む私たちに起きている現実です。あなたは、何を感じましたか？ 自分の今の気持ち、今の思いを書いてみましょう。

つぎに、これらの地球の現状、人々の叫びに呼応する取組みを見てみましょう。

「ラウダートシ・アクション・プラットフォーム」の7つの目標(「ラウダートシ」ゴールズ)に児童、生徒それぞれが目標を選んで取り組みました。(愛徳学園小学校・中学校・高等学校)

- 7つの目標(「ラウダートシ」ゴールズ)
①地球の叫びにこたえて ②貧しい人々の叫びにこたえて ③エコロジカルな経済へ
④持続可能なライフスタイルを取り入れて ⑤エコロジカルな教育へ ⑥エコロジカルな感性へ
⑦地域社会のレジリエンスとエンパワメント

「一人ひとりの行動で世界が変わることを信じて、私もその一人だということ自覚して責任を持ちたい。／一部の人間だけが快適で良い思いをするのではなく、同じ地球で生きる生物全員が誰も犠牲にならずに支え合っていくような努力をしていきたい(高2)」



話し合いの様子

「わたしは「目標①地球のさげびにこたえる」をがんばっています。やったことのひとつは、ごみひろいです。遠足に行った公園でひろったり、参観日の帰りにごみひろいをして帰りました。ひろいたくないものもありますが、みんなそらやっけてきたからとどんどんごみがふえてきたと思うので、がんばっています。ごみが海に流れてって魚たちがからまって死んでしまうこともあります。海に落ちたごみはひろうのがむずかしいので、海が近い公園では、ビニールぶくろがとばないように気をつけています(小5)」



海の植え付け

学校での取組みと声

その他の学校の取組みはぜひこちらをご覧ください!

国内の取組みと声

東日本大震災から10年。「カリタスみちのく」が発足し、被災地での支援活動を継続するカリタスベースやグループ同士の情報共有、情報発信を行っています。また、全国各地に頻発する自然災害、コロナ禍での生活困窮など、必要とされているところに支援をつなぐお手伝いをしています。(カリタスみちのく)

昨年東京教区に設立された「カリタス東京」の取組みの一つとして、カトリック系活動団体のゆるやかな連携促進を行っています。東京教区内では、法人格を持つ団体、任意団体、小教区、修道会やカトリック学校での活動グループなどが、カトリックの理念に基づく愛の奉仕の取組みを行っています。(カリタス東京)

公的な支援を受けることが難しく深刻な困窮に陥っている外国籍住民のために、一人ひとりと向き合ながら、同伴型支援を行っています。シェルターでは、コロナ禍で仕事や住まいを失った人が生活環境を整えながら、各支援機関につなげるための通訳や翻訳など、日本語学習・生活援助ボランティアと協働しながら、コロナ感染症終息後、入居者の自立が完了するまで支援を行っています。(愛の実行運動)

那覇地区4小教区(安里・小塚・開南・首里)の子ども達が、安里教会に集まりました。教会ホール中央にブルーシートを敷き、そこに大量のごみを集めて、分別作業を行い、その後「教皇フランシスコが手紙(回勅)」を書きました」というスライドショーを見ました。「地球が困っている」ことなど、様々な情報を伝えた後、「一緒に地球を助けよう!」と訴え、分ち合ひではグループごとに発表しました。(那覇教区)



「カリタスハンガリー ボランティアスタッフの言葉」

これらの取組みは一例にすぎません。

今、地球や人々の叫びに対して、あなたが行っていることや取組みを教えてください。

わたしたちを包み込んで支える世界を大切にすることは、わたしたち自身を大切にすることです。同じ家に住む「わたしたち」にならなければなりません。<FT17>

東日本大震災から10年。「カリタスみちのく」が発足し、被災地での支援活動を継続するカリタスベースやグループ同士の情報共有、情報発信を行っています。また、全国各地に頻発する自然災害、コロナ禍での生活困窮など、必要とされているところに支援をつなぐお手伝いをしています。(カリタスみちのく)

シナピスホームでは、在留資格が取得できない、または仮放免の外国籍の難民を保護しています。彼らは、就労を禁止され、寄付によって生活するしか、命をつなぐ方法はありません。ホームでは彼らの「支援されるだけではなく、誰かの役に立ちたい」という強い思いから、コロナ禍において、ポリ袋で医療用防護服を作成し、医療従事者の支援活動を実施しました。その後「シナピスカフェ」を立ち上げ、ホームの屋上で育てたミントを使用した「自家製ミントティー」と、持ち回りで作る各国のお菓子を無料で提供しています。地域の方々との異文化交流を深める場、社会貢献の場、生きる希望を育む場となっています。(シナピスカフェ)

日本女子修道会総長管区長会は、それぞれの修道会、修道院でラウダートシ精神を学んで実践し、報告書にまとめ共有してきました。各修道院では節電、資源の再利用、コンポストづくりや食品ロスを削減するための取組みをはじめ、子どもたちの居場所づくりやキッチンカーを使った食事提供、オンライン上映会など、修道院の外での活動も行っています。また危機的な状況(様々な暴力や生きづらさ、精神的不安など)の中にいる人々への電話やSNSによる無料相談、食事支援、宿泊支援など、一人ひとりに寄り添い、祈りながらともに歩む取組みも行っていきます。(日本女子修道会)

コロナ禍で、生活支援金を手渡すために久しぶりに彼らに会った時、彼らの悲しみに似た表情を見て気付いたことがあったのです。「支援を受ける」だけではなく、これまでのように清掃などの労働奉仕をして「誰かの役に立つ」。そのことによって、彼らは「人間としての尊厳を保ってきたのだ。(難民支援スタッフの声)

2023年四旬節 兄弟姉妹の皆さんカレンダー

Table with 4 columns: 1st Week, 2nd Week, 3rd Week, 4th Week. Includes dates and names of participating groups.

その他の国内の取組みはぜひこちらをご覧ください!

